

InterMail Post.Office 4.1.1J 補遺マニュアル

マニュアル・バージョン4.1.1

2009年8月

Open
Technologies

目次

1.	改良された機能について.....	1
2.	メールアーカイブ転送機能.....	2
2.1.	メールアーカイブ転送機能の改良点について.....	2
2.2.	設定項目の変更点.....	2
2.3.	ご利用上の注意.....	4
3.	メールブロッキングオプション.....	5
3.1.	メールブロッキングオプションの改良点について.....	5
3.2.	設定項目の変更点.....	5
3.3.	ご利用上の注意.....	8

1. 改良された機能について

InterMail Post.Office 4.1.1J では、次の機能が改良されました。本マニュアルでは、これらの機能の変更点を順次、簡単に説明します。

- － メールアーカイブ転送機能
- － メールブロッキングオプション

2. メールアーカイブ転送機能

2.1. メールアーカイブ転送機能の改良点について

メールアーカイブ転送機能が、以下のように改良されました。

- Post.Office v4.1.0.4 のメールアーカイブ転送機能では、Post.Office に登録されたアカウント宛のメールのみがアーカイブ転送の対象でしたが、v4.1.1 からは外部宛に送信されるメールも対象となり、処理される全てのメールをアーカイブ転送できるようになりました。
- Post.Office v4.1.0.4 のメールアーカイブ転送機能では、アーカイブメールの転送先メールアドレス（エンベロープの RCPT TO:アドレス）は、元メールの送信先アドレスに固定されていましたが、v4.1.1 からは、指定したメールアドレス宛に転送することもできるようになりました。
- Post.Office v4.1.0.4 のメールアーカイブ転送機能では、システムワイド・モードと、アカウント・モードの ON/OFF が連動していましたが、v4.1.1 からは、独立して設定できるようになりました。

2.2. 設定項目の変更点

■ システムワイド・モードとアカウント・モードの ON/OFF について

『アカウントデータ毎に設定した「メールアーカイブ転送ホスト設定」を有効にする』というラジオボタンが追加されました。

図1 メールアーカイブ転送の設定画面

旧バージョンのラジオボタン「メールアーカイブ転送を有効にする」では、システムワイド・モードとアカウント・モードの両方を設定することしかできませんでしたが、v4.1.1からは、この追加されたラジオボタンを使って、それぞれのモードを独立して設定できるようになりました。

ラジオボタン『メールアーカイブ転送を有効にする』では、システムワイド・モードのアーカイブ転送機能を有効にするかどうかを指定します。

ラジオボタン『アカウントデータ毎に設定した「メールアーカイブ転送ホスト設定」を有効にする』では、アカウント・モードのアーカイブ転送機能を有効にするかどうかを指定します。

それぞれの転送機能は互いに影響することなく、独立して動作します。

■ アーカイブメールの転送先の指定

「メールアーカイブ転送の設定」に、アーカイブメールの転送先メールアドレス（SMTP エンベロープの RCPT TO:アドレス）が指定できるようになりました。

以下のフォーマットで、転送先メールアドレスを指定します。転送先メールアドレスを指定するフィールドは省略可能です。

<From フィールド><To フィールド><アーカイブホスト [#ポート番号]><転送先メールアドレス>

または、

<From フィールド><To フィールド><アーカイブホスト [#ポート番号]>

尚、転送先メールアドレスを指定するフィールドが省略された場合は、以下の形式で Post.Office に登録されます。

<From フィールド><To フィールド><アーカイブホスト [#ポート番号]><>

転送先メールアドレスが指定されている場合、転送先に送信される際にアーカイブメールの RCPT TO:アドレス（SMTP エンベロープの宛先指定）が書き変わります。

例えば、次のように指定すると

<*><*><arch-host.domain.co.jp><arc-user@arch-host.domain.co.jp>

転送される際の全てのアーカイブメールの RCPT TO:アドレスは、<arc-user@arch-host.domain.co.jp> に書き変わります。

※ メール内のヘッダ一部に記述されている To:ヘッダは、書き変わりません。

転送先メールアドレスを省略して指定し、元のメールで複数の宛先が指定されている場合は、その RCPT TO:アドレスの中で<To フィールド>の条件にマッチしたメールアドレスが、アーカイブメールの転送先アドレスに指定されます。

例えば、次のように指定すると

<*><aaa@*><arch-host.domain.co.jp>

元メールの宛先（RCPT TO:アドレス）に <aaa@domain1.com>、<bbb@domain2.com> の2つのアドレスが指定されていた場合、アーカイブメールの転送先アドレスは、<aaa@domain1.com> になります。

2.3. ご利用上の注意

メールアーカイブ転送機能をご利用になる場合は、次の点にご注意ください。

- 転送されるアーカイブメールの SMTP エンベロープ送信元アドレス (MAIL FROM: アドレス) は、管理者アカウント「Postmaster」のメイン E メールアドレスが指定されます。
(メール内のヘッダー部に記述されている From: ヘッダーは、書き変わりません)
- Post.Office が受信できる全てのメールがアーカイブ転送の対象となりますが、以下のメールは転送されません。
 - ・メールブロッキングオプションや SMTP フィルターなどで受信が拒否された場合
 - ・SMTP エンベロープの RCPT TO:アドレスが空の場合 (RCPT TO: <>)
 - ・SMTP エンベロープの MAIL FROM:アドレスが空の場合 (MAIL FROM: <>)
 - ・メーリングリスト開設時のメッセージやメーリングリスト統計情報のメール等、Post.Office のモジュール内で生成され、メールボックスに直接、配信されるメール
(システムワイド・モードでは転送されませんが、アカウント・モードでは転送されます)
- 受信したメールが、システムワイド・モードとアカウント・モードの両方にマッチする場合は、どちらも転送されます。
(旧バージョンでは両方にマッチした場合、アカウント・モードが優先され、システムワイド・モードの転送は行われませんでした)
- メーリングリスト宛のメールは、個人宛のメールと同様に、エンベロープの RCPT TO:に指定されているアドレスにて、転送するかどうかを判断します。メーリングリストに登録されているメンバーのメールアドレスは参照しません。
(旧バージョンのアーカイブ転送機能では、メーリングリストのメンバーがローカルアカウントだった場合に、該当のメンバー毎にアーカイブ転送していました)
- Post.Office v4.1.1 以前のバージョンからアップグレードした場合、メールアーカイブ転送の設定は引き継がれません。Post.Office v4.1.1 以前のバージョンで、メールアーカイブ転送機能を利用されていた場合は、アップグレード後に再設定してください。

3. メールブロッキングオプション

3.1. メールブロッキングオプションの改良点について

メールブロッキングオプションが、以下のように改良されました。

- Post.Office v4.1.0.4 のメールブロッキングオプションでは、ブロックするメール（ブラックリスト）のみしか設定できませんでしたが、v4.1.1からは、常に受信するメール（ホワイトリスト）を設定できるようになりました。
- 送信元メールアドレスのチェックする際の条件に、ワイルドカード（「*」アスタリスク）を指定できるようになりました。（送信元 IP アドレスについては、従来どおり、IP アドレス、ネットワークアドレス、CIDR 表記にて指定します）

メールブロッキングオプションでの受信／拒否判定の処理の順序は、以下のとおりです。

- 1) 送信元 IP アドレスが、IP アドレスのホワイトリストにマッチする場合はメールを受信する
- 2) 送信元 IP アドレスが、IP アドレスのブラックリストにマッチする場合はメールを拒否する
- 3) RBL チェックの判定が、迷惑メール送信元の IP アドレスと判定されたメールを拒否する
- 4) 送信元メールアドレスが、メールアドレスのホワイトリストにマッチする場合はメールを受信する
- 5) 送信元メールアドレスが、メールアドレスのブラックリストにマッチする場合はメールを拒否する
- 6) NULL アドレスなどのチェックに該当する場合はメールを拒否する

このブラックリストとホワイトリストを組み合わせ、送信元メールアドレスのチェックにワイルドカードを使った指定をすることで、例えば、特定のメールサーバのみからメールを受信し、その他は全てブロックする、あるいは、指定したメールアドレス以外の TLD（トップレベルドメイン）からのメールを拒否する等、きめ細やかな設定が可能になりました。

3.2. 設定項目の変更点

メールブロッキングオプションの設定欄が、「送信元 IP アドレスのチェック」と「送信元メールアドレスのチェック」の 2 段階に分けられました。

■ 第 1 段階:送信元 IP アドレスのチェック

送信元 IP アドレスのチェックに「常に受信する:」という項目が追加されました。（送信元 IP アドレスのチェックにおけるホワイトリストとなります。「ブロックする:」はブラックリストです）

Post.Office に接続してきた送信元が、この「常に受信する:」にて指定された IP アドレスだった場合は、これ以降（第 2 段階を含め）で指定されているブロック判定は行なわれません。

RBLチェックを行なう: ⓘ
 RBLによるブロックを行わない(ログ記録のみ): ⓘ

RBL(DNSBL)ゾーン-1:

RBLアドレス: ⓘ
 activationcode.r.mail-abuse.com

エラーコード: ⓘ
 550

エラーメッセージ: ⓘ
 Mail from {client_addr} blocked using Trend Micro RBL+. Please see
http://www.mail-abuse.com/cgi-bin/lookup?{client_addr}

RBL(DNSBL)ゾーン-2:

RBLアドレス: ⓘ
 activationcode.q.mail-abuse.com

エラーコード: ⓘ
 450

エラーメッセージ: ⓘ
 Mail from {client_addr} blocked using Trend Micro Network Anti-Spam
 Service. Please see [http://www.mail-abuse.com/cgi-bin/lookup?](http://www.mail-abuse.com/cgi-bin/lookup?{client_addr})
 {client_addr}

■ 第 2 段階:送信元メールアドレスのチェック

送信元メールアドレスのチェックに「指定したアドレスからのメールを常に受信する:」「指定したドメインからのメールを常に受信する:」「指定したユーザー名からのメールを常に受信する:」という項目が追加されました。(この箇所の設定が、送信元メールアドレスのチェックにおけるホワイトリストとなり、下に続く「ブロックする:」の箇所がブラックリストとなります)

送信元メールアドレスのチェック:

エンベロープのMail From:アドレスを元に判断されます。

常に受信する: 無効 有効

指定したアドレスからのメールを常に受信する:
 ⓘ

複数指定可

指定したドメインからのメールを常に受信する:
 ⓘ

複数指定可

指定したユーザー名からのメールを常に受信する:
 ⓘ

また、「ブロックする:」の箇所には、送信元メールアドレスのチェックに「下の条件設定に関係なく全てブロック」という項目が追加されました。

例えば、上で指定したホワイトリストにはマッチしない、それ以外のメールを全てブロックしたい場合に利用します。

ブロックする: 無効 有効 下の条件設定に関係なく全てブロック

指定したアドレスからのメールをブロックする:

複数指定可

指定したドメインからのメールをブロックする:

複数指定可

指定したユーザ名からのメールをブロックする:

NULLアドレスからのメールをブロックする(例:MAIL FROM:<>) ⓘ

ドメイン名が設定されていないメールを拒否する: ⓘ

ドメイン名がHost名だけのメッセージを拒否する: ⓘ

ドメイン名がIPアドレスのメールを拒否する: ⓘ

名前解決のできないドメイン名からのメールを拒否する: ⓘ

MXレコードを検索できないドメイン名(FQDNを含む)からのメールを拒否する:

◀ 戻る 送信 リセット

図2 ブロッキングオプション設定画面

送信元メールアドレスによるブロックのホワイトリスト、ブラックリストでは、ワイルドカードとしてアスタリスク「*」が指定できるようになりました。「*」は、長さ 0 以上の任意の文字列にマッチします。

以下は、ワイルドカードによるマッチングの例です。

対象メールアドレス	ドメインの設定	マッチング
<smith@opentech.co.jp>	opentech*	○
	opentech	○
	op*ch*	○
	open*tech*	○
	*opentech	×
	ope*tech	×
	opentechx*	×
	opentech	×
	*	○
<> (ヌル・アドレス)	*	×

3.3. ご利用上の注意

メールブロッキングオプションをご利用になる場合は、次の点にご注意ください。

- メールブロッキングオプションは「送信元 IP アドレスのチェック」「送信元メールアドレスのチェック」の順に判定されます。例えば、第 2 段階の「送信元メールアドレスのチェック」のホワイトリストにマッチするケースでも、第 1 段階の「送信元 IP アドレスのチェック」のブラックリストでマッチしている場合にはブロックされます。

(C) 1993-2002, Openwave Systems Inc. All Rights Reserved.

(C) 2002-2009 Open Technologies Corporation. All Rights Reserved.

Improved & Distributed by Open Technologies Corporation.